

本日の会議の流れ

～『比較的、元気な人を作っていこう』～

地域ケア推進会議で出されたテーマの一つ

1. 「フレイル予防の取り組み」 介護予防の視点

フレイル  社会的 ……＜今回の視点＞
医学的

以下

『地域包括ケアシステムの進化・推進に向けた地域支援事業の効果的・効率的実施』

東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター

参照

「介護予防の目指すところ」

個人レベル: 心身機能の改善や環境調整などを通じて、日常生活の活動性を高め、
家庭や社会への参加、一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組
を支援し、生活の質(QOL)の向上につなげること

社会レベル: 要介護状態になっても、生きがいを持って生活できる地域の実現

⇒ 個人の QOL の向上と、QOL の向上を期待できる社会や地域づくり

加齢による社会とのつながりの変化

フレイルの進行に伴い、社会とのつながり(仕事・地域活動・趣味仲間・近所、友人)が
希薄化していく

⇒ 社会とのつながりの維持・再構築が重要(医療・福祉専門職の関わりは増えていく)

“本人のやりたいを引き出し、できるを実現する” キーワードは自立支援

2. 移動支援及び、地域住民同士の交流の場の効果を狙い、一つの方策として、
「街にベンチを設置する」のはどうか。

(1) 高齢者相談センター(5 圏域)の調査結果から

* [資料 1 参照]

＜市内のベンチ等の設置の現状＞

(2) 先行的に取り組んでいる自治体等について

目的：休憩できる場づくり、語り合う場づくり は、共通している

“生活支援体制整備”の視点での取り組み例……地域住民等の協力

〔既存のベンチや椅子の利用 ステッカーを配布〕

① 豊島区(社会福祉協議会)

[資料2]参照

② 松戸市新松戸地区(地域包括支援センター)

[資料3]参照

③ 柏市(市)

[資料4]参照

“バリアフリー整備”の視点での取り組み例……企業等の寄贈の協力

〔固定設置〕

① 千葉市(建設局土木部)

[資料5]参照

“地球温暖化対策”の視点での取り組み例……他市との協定を活用

① 習志野市(都市環境部環境政策課)

[資料6]参照

(3) 意見交換

論点例

① どんな所に設置するのがいいか

市内のどこかの圏域で、モデルとして取り組めるか。それは、どこが適切か。

② 管理はどうするか。ベンチは、作成するのか、任意の厚意に委ねるのか。

③ 地域の人々の意見を取り入れて進めていくには。

(4) まとめ

① 本日の意見交換から、今後の取り組みの概要について

② 次回の会議までの、取り組みの目指すところ